

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	釜石市すくすく親子教室		
○保護者評価実施期間	令和7年12月17日		～ 令和8年2月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 6名
○従業者評価実施期間	令和7年12月17日		～ 令和8年1月12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○訪問先施設評価実施期間	令和7年12月17日		～ 令和8年1月12日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	4園	(回答数) 5園
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童発達支援と保育所等訪問支援の並行利用により、利用児の状態を把握したうえで訪問支援を行うことができる。	・訪問時に児童発達支援の様子を園の先生にお伝えし、対応方法等を共有することができるようにしている。	・訪問先の園の先生に当事業所(児童発達支援)での対象児の様子を見学をしてもらい、連携を行っていく。
2	・保育所等訪問支援後に保護者・訪問先に対して丁寧に支援内容等を共有している。	・訪問時の内容を報告書として作成、保護者には児童発達支援を事業を利用した時に丁寧に説明している。 ・訪問先に報告書を渡している。必要に応じて電話でのやりとりも行っている。	・保護者、訪問先への説明や情報共有を密に行い、より良い支援につなげていく。
3	・保護者、訪問先との信頼関係。	・訪問時に園の状況を丁寧に聞き取るようにしている。 ・保護者、訪問先の先生に寄り添い、一緒に手立てを考えながら園の先生が日々の保育に取り入れやすい支援方法を提案している。	・訪問先での困り感や相談事があれば、迅速に対応し、さらに信頼関係を深めていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・訪問希望があった場合の迅速な対応が困難。 ・訪問支援員の人材育成	・多機能型事業所のため職員が業務を兼務しており、希望に合った場合に迅速な対応が困難。 ・訪問支援員の業務負担と人員の育成、スキルアップ。	・職員の資質向上を図るため、研修の受講や外部職員の助言を受け、支援に活かす機会を設定する。
2	・保育所等訪問支援のみの利用の保護者が必要性を感じていない等情報共有の仕方、家族支援が必要。	・保護者へ訪問後の報告を行ったが、必要性を感じておらず継続的な訪問支援ができなかった。 ・保護者が事業所に来所しての報告が難しく、報告書の郵送、電話連絡となり、直接のやりとりが少なくなった。	・保護者との連絡方法を検討。園と連携しながら保護者が負担とならないような連絡手段、支援体制を検討する。
3			